

香川県近世社寺建築の調査

建 造 物 研 究 室

昭和52年度より始まった近世社寺建築の緊急調査は本年度で3年目を数え、当研究所は岡山県・山口県に次いで香川県を担当した。香川県は面積こそ1870km²と狭いが、社寺の数は約2千あり単位面積の比率からみれば他県よりも密度は高い。殊にミニ88ヶ所の札所を設けている小豆島をはじめとする瀬戸内海に点在する島嶼部を含んでいるのが特徴的である。

今回の調査件数(社寺数)と棟数を下表にあげる。各市町村に依頼した予備調査では、総社寺の約4分の1があがり、調査員が実査したそれ以降の調査の数は、一次調査は予備調査の約2分の1、二次調査は一次調査の約6分の1にあたる。二次調査の棟数が83とこれまでの調査に比べ少ないのは、一次調査の内容を充実させたことによる。したがって、二次調査対象の選定にあたってはかなりの厳選を余儀なくされ、いきおい年代の古いものを優先する結果となった。83棟の年代別内訳は17世紀46棟、18世紀33棟、19世紀4棟である。

調査建物中最も古いものは法泉寺生駒家霊廟(高松市・元和元・1615)である。一辺1.45mと小形ながら墓股・木鼻などの細部様式も時代相応で、近世初頭4代54年たわにり讃岐一円を領した生駒時代の唯一の建物だけに貴重な存在である。生駒家のあとは寛永18年(1641)西讃の丸亀に山崎氏が(明暦4年以降は高極氏)寛永19年(1642)東讃の高松には松平家が入り以降の二藩制の基礎が確立する。高松初代藩主松平頼重は元禄八年(1695)に没するまでの間数多くの社寺を建立した。現在残っている17世紀の建物はほとんどこの頼重がかかわっているものといっ
てよい。なかでも、慶安2年(1649)建立の大門をはじめ正保2年(1645)の陸魂社(旧三十番神堂)、同時頃の幽深殿(旧護摩堂)など数多くの建物を擁する金刀比羅宮(琴平町)、京都の石清水八幡を勧請したという石清尾八幡宮(高松市)の隨身門、拝殿、釣殿、本殿(ともに17世紀末頃)の社殿群、自らの菩提寺として生前法然ゆかりの寺を再興した法然寺(高松市)などは著名である。この法然寺は高松の南方8軒の位置にある仏生山山頂を墓地にとり、比較的勾配の緩かな東斜面に境内が営まれている。伽藍が完成した寛文11年(1671)当時の建物としては、下から十王堂・涅槃門・三仏堂・祖師堂・本堂門・古宝蔵・鐘楼門・二尊堂・来迎堂の9棟が今なお残り、他の堂宇とともに一大伽藍を構成していまさに藩主が直接営んだ寺院だけの景観

をもっている。

一方には、庶民信迎に支えられた弘法大師ゆかりの四国霊場八十八ヶ所がある。香川県には67番から結番までの22ヶ寺があるが、もちろん寺の由緒は各寺院によって異なり、観音寺(69番・観音寺市)本山寺(70番・豊中町)国分寺(80番・国分寺町)屋島寺

| | 予 備 調 査 件数 棟数 | 第一次調査 件数 棟数 | 第二次調査 件数 棟数 |
|-----|------------------|----------------|----------------|
| 神 社 | 203 443 | 60 119 | 15 23 |
| 寺 院 | 307 704 | 143 382 | 36 60 |
| 計 | 510 1147 | 203 501 | 51 83 |

調査件数・棟数表

(84番・高松市)のように中世に建立された本堂(すべて国指定)をもつ寺もあるし、また、霊場参りが一般に流布する江戸時代になって再建整備された寺寺も多い。伽藍は普通南面し、正面に門を開いて境内中央に本堂を置き、その左右に大師堂・護摩堂・開山堂などの諸堂が建ち並び、これに鐘楼・塔など加わるという密教系寺院の一般的形態と変わらない。弥谷寺(71番・三野町)白峯寺(81番・坂出町)根香寺(82番・高松市)八栗寺(85番・牟礼町)大窪寺(87番・長尾町)などのような山嶽寺院は、それぞれの地形に即した伽藍配置をもっている。

この中で最も古く、かつ最大規模の本堂は、志度寺(86番・志度町・寛文10・1670)で、桁行七間、梁間五間あり、これに三間の向拝がつく。内部はすべて拭板敷きで、梁間五間のうち前二間を外陣、奥三間を内陣にわけ、その両脇一間を脇陣にとるなど中世仏堂の色彩を濃厚に残す堂々たる本堂である。また、善通寺金堂(75番・善通寺市・元禄12・1699)は、三間裳階付きで、床は四半敷きとし身舎斗拱を二手先の詰組とするなど比較的忠実に禅宗様を伝承した例であり、道隆寺本堂(77番・多度津町・18世紀中)のように床を四半敷きにし、各部に禅宗様細部をもちいながら裳階建てとしない五間堂もある。これら五間以上の大形仏堂がままあるのに対し、数の上ではもちろん三間堂が最も多い。八栗寺本堂(宝永6・1709)や、金倉寺本堂(76番・善通寺市・明和6・1769)は、桁行10m近くあって三間堂としては大きい方に属する。

以上、香川県の近世社寺建築を代表させて高松初代藩主松平頼重造営のものと、四国霊場にかかるもののうちから数件を選んであげた。もちろん県下にはこれ以外にも優秀な建物をもつ社寺は多い。先ず神社では三間社流れ造の八幡神社本殿(仁尾町・寛文6・1666)が最も古い。また小規模な一間社流れ造ではあるが住吉神社本殿・山神神社本殿はともに寛文年間の建立で同一地域(土庄町)にあるのは注目される。その他17世紀の社殿として春日造では田村神社御供殿(高松市)垂水神社古本殿(丸亀市)などが、入母屋造では葛原八幡神社本殿(多度津町)木鳥神社本殿(丸亀市本島)などがあり、各形式が混在していることがわかる。札所以外の寺院で浄土真宗がある。県下寺院総数の約45%を占めなかでも興正派が多い。しかし建築としては古いものはなくほとんど18世紀末以降の真宗本堂として類型化されたのちのものである。日蓮では本門寺(三野町)の伽藍が整っている。

(細見 啓三)

田村神社社殿

志度寺本堂